

1. 科目名 (単位数)	生活支援技術・基本Ⅱ (4単位)	3. 科目番号	SNMP2115
2. 授業担当教員	櫻井 恵美		
4. 授業形態	講義及び演習、グループディスカッション	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・他科目との関係	生活支援技術基本Ⅰを履修していること。		
7. 講義概要	介護を要する人たちに対し、尊厳の保持の観点から、どのような状態であっても、その人の自立・自律を尊重していくことが必要である。潜在能力を引き出したり、見守ることも含めた適切な介護技術を用いて、日常生活動作を安全に援助でき、根拠ある科学的な知識や技術を習得することを目的とする。生活支援技術に必要な人体の構造や機能について、「こころとからだのしくみ」での学びから、現場に出て応用できるよう根拠に基づいた介護の知識と技術に重点を置き、授業を展開していく。		
8. 学習目標	生活支援技術・基本Ⅱが終了した時点で、下記について根拠に基づいた基本的介護の知識と技術が習得でき、心身の状況に応じた介護を実践できることが期待される。 1. 自立に向けた身じたくの介護 2. 自立に向けた移動の介護 3. 自立に向けた食事の介護 4. 自立に向けた入浴・清潔保持の介護 5. 自立に向けた排泄の介護 6. 自立に向けた睡眠の介護		
9. アサシメント (宿題) 及びレポート課題	要介護者の状況に応じた自立に向けた生活支援技術の各目的、手順、留意点、その根拠と考察を演習シートにまとめて提出する。提出期限厳守。成績評価に反映されます。 事前・事後学習およびレポート課題 ①学習の目標にあげられているそれぞれの介護技術について、演習内容について演習シートに記入し提出する。 ②高齢者に多い失禁に対する援助を根拠に基づいて指定用紙に整理する。第24回の授業で提出する。 ③第25回の事前学習として、紙おむつの体験を指定用紙にまとめる。		
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】「生活支援技術・基本Ⅰ」と同じ教科書を使用するため、新たに購入する必要無し。 【教材】DVD 白井孝子、櫻井恵美監修 「根拠に基づく生活支援技術の基本」中央法規出版 2015 【参考書】授業で随時紹介します。		
11. 成績評価の規準と評定の方法	○成績評価の規準 1. 自立に向けた身じたく、移動、食事、入浴・清潔保持、排泄、睡眠の各介護を習得できる 2. 実践したことの目的、方法、根拠をレポートにまとめてまとめることができる。 ○評定の方法 1. 到達度確認試験 (実技試験) 30% 2. レポート 40% 3. 授業態度 30%		
12. 受講生へのメッセージ	ただ単にテクニックを覚えるのではなく、「こころとからだのしくみ」「介護概論」「生活支援技術・基本Ⅰ」と関連付けながら、根拠に基づいた科学的な生活支援技術の習得を行ってください。 ・介護しやすい指定の服装、身だしなみで授業に臨むこと。 ・介護福祉士としての基本的姿勢を身につけることを意識し、演習時には、言葉遣い、立ち居振る舞いに留意すること。 ・支援技術に必要な物品は忘れないように持参すること。忘れた場合には授業に参加できないため、欠席となる場合があります。 ・理解できないことをそのまま放っておかないこと。 ・自己流、根拠のない技術にならないよう基本技術をしっかりと身につけること。		
13. オフィスアワー	授業前後の休憩時間		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	オリエンテーション 「生活支援技術Ⅱ」のねらいと、単元の解説。グループ編成 テーマ「自立に向けた睡眠の介護」 睡眠の意義、目的を理解し、利用者の状態、状況に応じた自立に向けた安眠を促す介護を習得する。	事前学習	シラバスを読み、本教科の内容を理解する。演習シート、資料等を整理するファイルを用意する。 自分の不眠状態の場合の原因を考える。
		事後学習	安眠への支援を根拠に基づき整理する。
第2回	テーマ「人の動きを支援するにあたって～動き出し～」と自立に向けた移動の介護－歩行 人間らしく生活するために、移動の意義を学習し、「こころとからだのしくみ」で学んだからだの自然の動きを振り返りながら、麻痺等の運動機能障害がある利用者の状態・状況に応じて、残存能力を活用した支援技術のあり方を考え、実践できるようにする。 また、立って歩くことの意義を理解し、利用者の状態・状況に応じた自立に向けた支援技術を習得する。 課題：左片麻痺のある要介護者の歩行介助 ・3動作歩行、2動作歩行 ・階段の上り下り ・障害物を越える	事前学習	生活支援技術基本Ⅰで学習した、①自然なからだの動き、②ボディメカニクスについて、③杖歩行介助について復習しておく。
		事後学習	左片麻痺のある要介護者の歩行介助を根拠に基づいて整理する。

第3回	<p>テーマ「自立に向けた移動の介護—ボディメカニクス—」 生活支援を行っていく中で、介護を必要とする人と介護者の安全と安楽の視点から、腰痛予防、ボディメカニクスを理解し、その技術を習得する。 課題：左片麻痺のある要介護者の上方移動の介助 課題：左片麻痺のある要介護者の水平移動の介助</p>	事前学習	生活支援技術Ⅱのテキストを読み、人間の重心の位置を確認する。
		事後学習	上方移動において、ベクトルの法則を活用した介助を根拠に基づき、整理する。
第4回	<p>テーマ「自立に向けた移動の介護—体位変換」 人間らしく生活するために、移動の意義を学習し、「こころとからだのしくみ」で学んだからだの自然の動きによる寝返りなど、利用者の状態・状況に応じた自立に向けた支援技術を習得する。 課題：左片麻痺のある要介護者の仰臥位から側臥位への介助（背面法、対面法）</p>	事前学習	生活支援技術Ⅱのテキストを読み、背面法、対面法の違いを確認する。
		事後学習	トルクの原理を活用した仰臥から側臥位への介助について、根拠に基づき、整理する。
第5回	<p>テーマ「自立に向けた移動の介護—体位変換」 人間らしく生活するために、移動の意義を学習し、「こころとからだのしくみ」で学んだからだの自然の動きによる寝返りなど、利用者の状態・状況に応じた自立に向けた支援技術を習得する。 課題：左片麻痺のある要介護者の仰臥位から端座位への介助</p>	事前学習	仰臥位から端座位になるまでの体の動きを意識しながら体験し、自然なからだの動きを確認する。
		事後学習	仰臥位から端座位への介助を根拠に基づいて演習シートに整理する。
第6回	<p>「自立に向けた身じたくの介護—衣服の着脱—」 自己表現の視点から、身じたくについて学習し、利用者の状態・状況に応じた自立に向けた支援技術を習得する。 課題：和式寝間着の着脱介助（ベッド上）</p>	事前学習	生活支援技術Ⅱのテキストを読み、和式寝間着の衿の合わせ方（左前にしない）の理由を考える。
		事後学習	和式寝間着の着脱介助を根拠に基づき、整理する。
第7回	<p>テーマ「自立に向けた身じたくの介護Ⅰ—衣服の着脱—」 自己表現の視点から、身じたくについて学習し、利用者の状態・状況に応じた自立に向けた支援技術を習得する。 課題：左片麻痺のある要介護者の前開きパジャマの着脱介助（椅座位） 課題：左片麻痺のある要介護者のかぶり式パジャマの着脱介助（椅座位）</p>	事前学習	自分の利き手がマヒした場合の衣服の着脱を体験する。
		事後学習	左片麻痺のある要介護者の衣服の着脱介助を根拠に基づいて演習シートに整理する。
第8回	<p>テーマ「自立に向けた身じたくの介護—身だしなみ—」 自己表現の視点から、身じたくについて学習し、利用者の状態・状況に応じた自立に向けた支援技術を習得する。 課題：爪切り、ひげそり</p>	事前学習	普段行っている足と手の爪の切り方の違い、留意点を考える。
		事後学習	整容の介護において、介護福祉士が行ってはいけない行為について、根拠を入れて、指定用紙にまとめる。
第9回	<p>テーマ「自立に向けた移乗の介護—車椅子への移乗」 介護を必要とする人がどのような状態であっても、社会活動の拡大、余暇活動を目的とした移動ができるよう学習し、福祉用具などの活用による利用者の状態・状況に応じた自立に向けた支援技術を習得する 課題：左片麻痺のある要介護者の端座位から立位への介助 課題：左片麻痺のある要介護者の仰臥位から端座位、立位への介助 課題：左片麻痺のある要介護者の車いすへの移乗介助</p>	事前学習	端座位から立位になるまでの体の動きを意識しながら体験し、介助の必要性を考える。
		事後学習	左片麻痺のある要介護者の仰臥位から立位への介助、車いすへの移乗介助を根拠に基づいて整理する。
第10回	<p>テーマ「自立に向けた移乗の介護—ポータブルトイレへの移乗」 介護を必要とする人がどのような状態であっても、社会活動の拡大、余暇活動を目的とした移動ができるよう学習し、福祉用具などの活用による利用者の状態・状況に応じた自立に向けた支援技術を習得する 課題：左片麻痺のある要介護者のポータブルトイレへの移乗介助</p>	事前学習	左手足が不自由になった場合を想定し、ポータブルトイレの望ましい設置場所を考える。
		事後学習	左片麻痺のある要介護者のポータブルトイレへの移乗介助を根拠に基づいて整理する。
第11回	<p>テーマ「自立に向けた食事の介護—誤嚥、脱水①」 食べることの意義や目的、「こころとからだのしくみ」で学んだ口腔や咽頭部などの構造、嚥下のしくみから、咀嚼、誤嚥などを学習し、安全で安心できる食事の方法を理解する。</p>	事前学習	「こころとからだのしくみ」で学習した、食事の過程を確認しておく。
		事後学習	安全で安心できる食事の姿勢を根拠に基づいて整理する。
第12回	<p>テーマ「自立に向けた食事の介護—誤嚥、脱水②」 食べることの意義や目的、「こころとからだのしくみ」で学んだ心身の老化を理解した上で脱水の防止を学習する。</p>	事前学習	「こころとからだのしくみ」で学んだ水分の出納量を確認しておく。
		事後学習	高齢者の水分補給の必要性を根拠に基づいて整理する。
第13回	<p>テーマ「自立に向けた食事の介護—食事介助①」 介護を必要とする人がどのような状態であっても安全</p>	事前学習	仰臥位の状態で水を飲んでみる。 弁当（パン、おにぎり不可）、はし（割り箸不

	<p>でおいしく、楽しく食事ができるよう工夫し、利用者の状態・状況に応じた自立に向けた支援技術を習得する。 課題：食事介助の準備</p>		<p>可)、汁物、スプーン、水分、タオルを準備しておくこと（演習にて使用）</p>
		事後学習	<p>安全でおいしく、楽しく食事ができるような姿勢、介護者の位置を確認する。</p>
第14回	<p>テーマ「自立に向けた食事の介護－食事介助②」 介護を必要とする人がどのような状態であっても安全でおいしく、楽しく食事ができるよう工夫し、利用者の状態・状況に応じた自立に向けた支援技術を習得する。 課題：左片麻痺のある要介護者、視覚障害のある要介護者の食事介助、口腔ケア</p>	事前学習	<p>食事の環境を整える。タオル、歯磨剤、歯ブラシ、コップ、曲がりストロー 持参のこと。（演習にて使用）</p>
		事後学習	<p>左片麻痺のある要介護者、視覚障害のある要介護者の食事介助を根拠に基づいて整理する。</p>
第15回	<p>テーマ「自立に向けた入浴・清潔保持の介護Ⅰ－入浴①」 清潔の意義を学習し、安全に安楽に入浴できるよう利用者の状態・状況に応じた自立に向けた支援技術を習得する。 課題：機械浴の準備</p>	事前学習	<p>生活支援技術Ⅱのテキストを読み、機械浴に必要な物品を考え、用意する。 Tシャツ、短パン、タオル、バスタオル、ビーチサンダル 水分持参のこと（演習にて使用）</p>
		事後学習	<p>機械浴の介助で注意すべきことを考える。</p>
第16回	<p>テーマ「自立に向けた入浴・清潔保持の介護Ⅰ－入浴②」 清潔の意義を学習し、安全に安心して入浴できるよう利用者の状態・状況に応じた自立に向けた支援技術を習得する。 課題：寝たきり状態の要介護者の機械浴介助</p>	事前学習	<p>安全・安心な機械浴の環境を整える。</p>
		事後学習	<p>機械浴の介助を根拠に基づき整理し、レポートに活かす。</p>
第17回	<p>テーマ「自立に向けた入浴・清潔保持の介護Ⅱ－洗髪①」 介護を必要とする人がどのような状態であっても清潔が保持できるよう、ベッド上での洗髪を学習し、利用者の状態・状況に応じた自立に向けた支援技術を習得する。 課題：洗髪器の作り方</p>	事前学習	<p>生活支援技術Ⅱのテキストを読み、洗髪時の注意点を考える。必要な物品を用意する。</p>
		事後学習	<p>身近な物品を使用した福祉用具の工夫点について理解する。</p>
第18回	<p>テーマ「自立に向けた入浴・清潔保持の介護Ⅱ－洗髪②」 介護を必要とする人がどのような状態であっても清潔が保持できるよう、ベッド上での洗髪を学習し、利用者の状態・状況に応じた自立に向けた支援技術を習得する。 課題：ベッド上での洗髪の介助</p>	事前学習	<p>ベッド上で洗髪を行う際の安楽な姿勢、必要な物品について考える。</p>
		事後学習	<p>ベッド上での洗髪介助を根拠に基づいて整理する。</p>
第19回	<p>テーマ「自立に向けた入浴・清潔保持の介護Ⅲ－部分浴①」 介護を必要とする人がどのような状態であっても清潔が保持できるよう、手浴や足浴などの部分浴を学習し、利用者の状態・状況に応じた自立に向けた支援技術を習得する。 課題：ベッド上での足浴の準備</p>	事前学習	<p>生活支援技術Ⅱのテキストを読み、足浴に必要な物品を考え、用意する。</p>
		事後学習	<p>ベッド上での足浴の注意点を考える。</p>
第20回	<p>テーマ「自立に向けた入浴・清潔保持の介護Ⅲ－部分浴②」 介護を必要とする人がどのような状態であっても清潔が保持できるよう、手浴や足浴などの部分浴を学習し、利用者の状態・状況に応じた自立に向けた支援技術を習得する。 課題：ベッド上での足浴の介助</p>	事前学習	<p>ベッド上で足浴を行う際の安楽な姿勢、必要な物品について考える。</p>
		事後学習	<p>ベッド上での足浴介助を根拠に基づいて整理する。</p>
第21回	<p>テーマ「自立に向けた入浴・清潔保持の介護Ⅳ－清拭①」 介護を必要とする人がどのような状態であっても清潔が保持できるよう、清拭を学習し、利用者の状態・状況に応じた自立に向けた支援技術を習得する。 課題：ベッド上での背部清拭の準備</p>	事前学習	<p>生活支援技術Ⅱのテキストを読み、背部清拭に必要な物品を考え、用意する。</p>
		事後学習	<p>ベッド上で背部清拭を行う際の注意点を考える。</p>
第22回	<p>テーマ「自立に向けた入浴・清潔保持の介護Ⅳ－清拭②」 介護を必要とする人がどのような状態であっても清潔が保持できるよう、清拭を学習し、利用者の状態・状況に応じた自立に向けた支援技術を習得する。 課題：ベッド上での背部清拭の介助</p>	事前学習	<p>ベッド上での洗髪を行う際の安楽な姿勢、必要な物品について考える。</p>
		事後学習	<p>背部清拭の介助を根拠に基づいて整理する。</p>
第23回	<p>テーマ「自立に向けた排泄の介護－排泄障害」 排泄の意義や「こころとからだ」のしくみで学んだ排泄のしくみ、老化による排泄の変化から、排泄介護を学習する。</p>	事前学習	<p>「こころとからだ」のしくみで学んだ骨盤底筋群の位置、排泄のしくみについて確認する。</p>
		事後学習	<p>高齢者に多い失禁に対する援助を根拠に基づいて指定用紙に整理する。</p>
第24回	<p>テーマ「自立に向けた排泄の介護－排泄介助①」 排泄の意義や「こころとからだ」のしくみで学んだ排泄のしくみ、老化による排泄の変化から、排泄介護を学習する。</p>	事前学習	<p>ポータブルトイレの種類を確認しておく。</p>
		事後学習	<p>ポータブルトイレ使用時の注意点を根拠に基づいて整理する。</p>
第25回	<p>テーマ「自立に向けた排泄の介護－排泄介助②」 介護を必要とする人がどのような状態であっても気持ちよい排泄ができるよう工夫し、利用者の状態・状況に応じた自立に向けた支援技術を習得する。 課題：尿器、差し込み便器による排泄介助</p>	事前学習	<p>排泄介護で注意すべきことを要介護者の立場にたって考える。</p>
		事後学習	<p>尿器、差し込み便器の介助を根拠に基づいて整理する。</p>
第26回	<p>テーマ「自立に向けた排泄の介護－排泄介助③」</p>	事前学習	<p>おむつ体験を通して、要介護者の精神的負担</p>

	介護を必要とする人がどのような状態であっても気持ちよい排泄ができるよう工夫し、利用者の状態・状況に応じた自立に向けた支援技術を習得する。 課題：ベッド上での布おむつの交換の介助 課題：ベッド上での紙おむつの交換の介助	事後学習	を理解する。指定用紙に記入し提出する。 ベッド上での紙おむつの交換の介助を根拠に基づき演習シートに整理する。
第27回	テーマ「自立に向けた排泄の介護—排泄介助④」 介護を必要とする人がどのような状態であっても、社会活動の拡大、余暇活動を目的とした移動ができるよう学習し、福祉用具などの活用による利用者の状態・状況に応じた自立に向けた支援技術を習得する 課題：左片麻痺のある要介護者のポータブルトイレでの排泄介助	事前学習	第23回～26回を振り返り、排泄介助の留意点を確認し、実践できるようにしておく。
		事後学習	尊厳の保持を考え、左片麻痺のある要介護者のポータブルトイレでの排泄介助を根拠に基づいて整理する。
第28回	テーマ「利用者の心身の状態に応じた介助」 事例を通して、アセスメントし、介助内容を組み立てる。	事前学習	アセスメントについて調べ、その視点について確認しておく。事例を読み、利用者の状況に応じた介助内容が組み立てられるようにしておく。
		事後学習	介助内容を実践できるように繰り返し練習する。
第29回	「実技試験」 事例を通して生活支援技術の試験を行う。	事前学習	事例に基づいた介助が行えるよう技術等の練習をする。
		事後学習	試験を振り返り、間違ったところを正しくまとめ、実践できるようにしておく。
第30回	生活支援技術の試験を振り返り、的確な技術を習得する。	事前学習	事例の手順、留意点、その根拠を整理する。
		事後学習	介助におけるアセスメントの重要性を、実技試験を振り返って整理する。
期末試験			